

海運の重要性を学校教育の場で

～栗林商船の協力を得て出前授業およびRORO船の命名・進水式の見学会を開催～

当協会は、学校教育において、わが国の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業を取り上げていただくよう、会員会社や関係団体と連携して教育関係者に対し、商船や海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

今般、栗林商船のご協力のもと、7月18日（木）に内海造船 瀬戸田工場において、広島大学附属三原小学校の4・6年生 約130名を対象にRORO船の命名・進水式見学会を実施しました。なお、本見学会に先立ち、6月27日（木）に、本船の大きさ・航行する場所やどのような貨物をどのくらいの量を運ぶかなど船や船員に関する事前の出前授業を実施しました。

見学会当日、本船は命名式にて『神珠丸』と名付けられた後に、進水準備の鐘が鳴り響き、船につながる一本のロープ（支鋼）が銀斧で切断されると、船はゆっくりと動き出すとともに、船首に取り付けられたシャンパンやクス玉が割れ、青空に紙テープ、紙吹雪、風船が舞い上がり、船はスピードを上げて、拍手と歓声に見送られる中で、約175mもある巨体を大海原へと浮かべました。



（出前授業の様子）

見学会に参加した児童からは「船を吊るして海に運ぶと思っていた」「海に浮かんでいる船は見たことあるが、陸の船を間近に見て迫力がすごかった」「あんな大きなものが海に浮かぶのは信じられない」などの感想が寄せられました。

当協会では、今後とも皆様の日々の生活を支える海運を広く知っていただくための活動を実施してまいります。



（本船を間近で見学する児童たち）



（進水する本船を見送る様子）